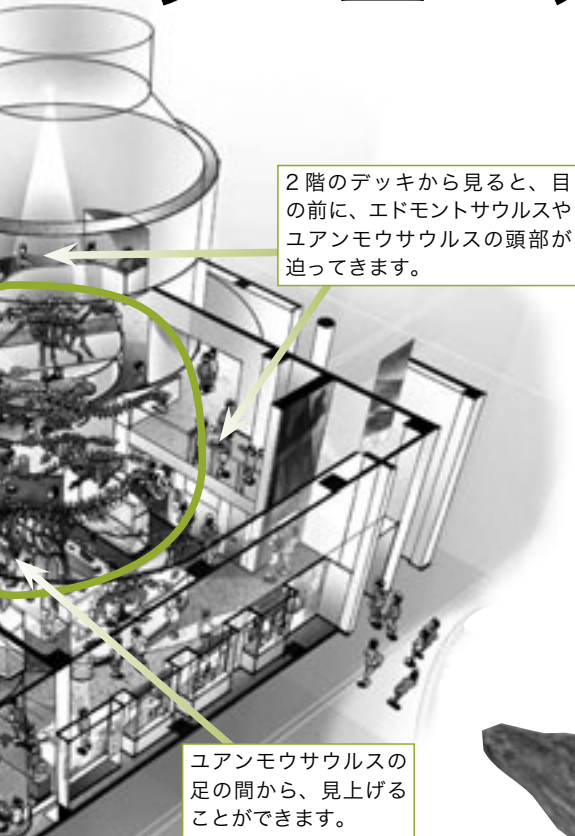


特集

中生代展示室が リニューアルオープン!



ユアンモウサウルス頭部



2階のデッキから見ると、目の前に、エドモントサウルスやユアンモウサウルスの頭部が迫ってきます。

ユアンモウサウルスの足の間から、見上げることができます。

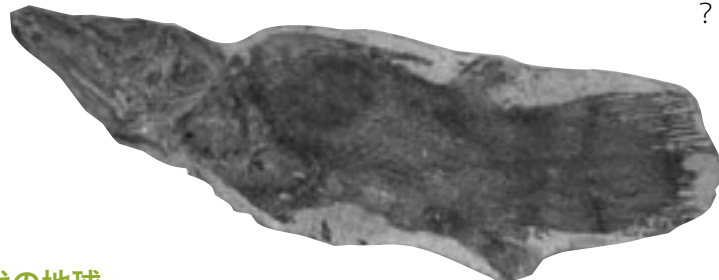
新しい中生代展示室イメージ

中生代展示室展示改装記念式典

とき 4月26日(土) 午前9時(30分程度)

その他 一般公開は式典終了後となります

いろいろな恐竜に会える中生代展示室が、4月26日(土)にパワーアップしてリニューアルオープンします。エドモントサウルスなど10体の恐竜の全身骨格(実物を含む)を上や下から見ることが出来ます。そして、化石にさわったり、動かしたりして楽しむことができる展示がたくさんあります。ここだけにしかない展示品も多くある自然史博物館で、恐竜の生活をのぞいてみませんか？



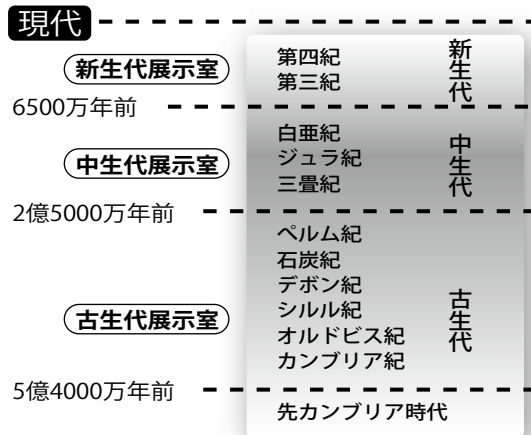
生きている化石と呼ばれているシーラカンスの化石(ブラジル産)

恐竜が暮らしていた中生代の地球

恐竜が暮らしていた中生代とは、約2億5千万～6500万年前の時代のことを言います。中生代のはじめ三畳紀に、恐竜が出現し、ジュラ紀には原始的な鳥類が現れ恐竜が繁栄しました。しかし、白亜紀の末に地球規模の大絶滅が起き、恐竜や大型ハ虫類は絶滅しました。中生代展示室では、中生代に繁栄した恐竜の全身骨格を中心とした展示をしています。古生代展示室から見学すると、生物がどのように進化していったかが分かります。

恐竜はどうやって化石になった？

恐竜などが死んだ後、砂や泥に閉じ込められて長い年月をかけて化石になります。通常は、肉やひふなどはくさり、かたい骨などが化石になります。条件が良いと、うんちや足跡まで化石として残ることもあります。



地質年代表

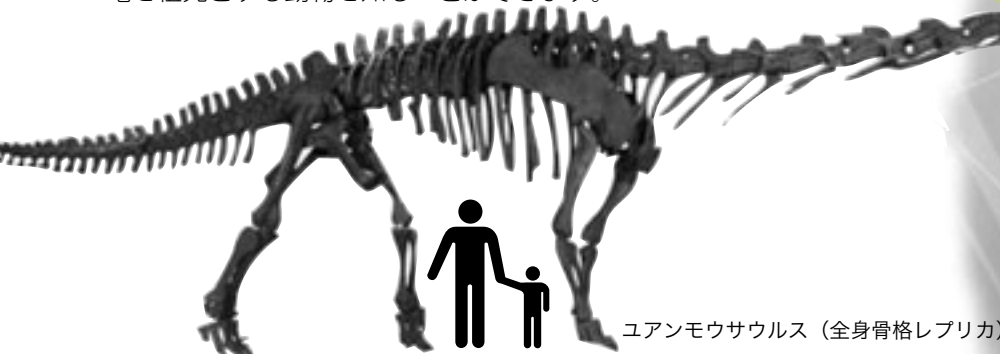


手前：パキケファロサウルスの子どもたち
奥左から：ドロマエオサウルス、キロステノテス、エドモントサウルス

クイズに答えて恐竜が滅んだ秘密を解こう！

白亜紀後期の北アメリカを再現した恐竜の世界。パキケファロサウルスの子どもたちが、肉食のドロマエオサウルスが近づいていることを、植物食のエドモントサウルスに教えてあげています。

クイズに答えながら、恐竜が滅んでしまった秘密と、恐竜を祖先とする動物を知ることができます。



ユアンモウサウルス（全身骨格レプリカ）

全長1m以下の恐竜から17mの恐竜！

実物の全身骨格、エドモントサウルスのほか日本ではここでしか会えない恐竜もあります。今回仲間に加わった新属新種のユアンモウサウルスです。全長17mもある自然史博物館内で最大の恐竜ですが、植物食なので大きい割にアゴが小さいなどの特徴があります。この巨大なユアンモウサウルスは、下からも見ることができます。

そして、体長が90cmほどしかありませんが、立派な恐竜であるアーケオセラトプスにも会えます。

自然史博物館で会える大型恐竜

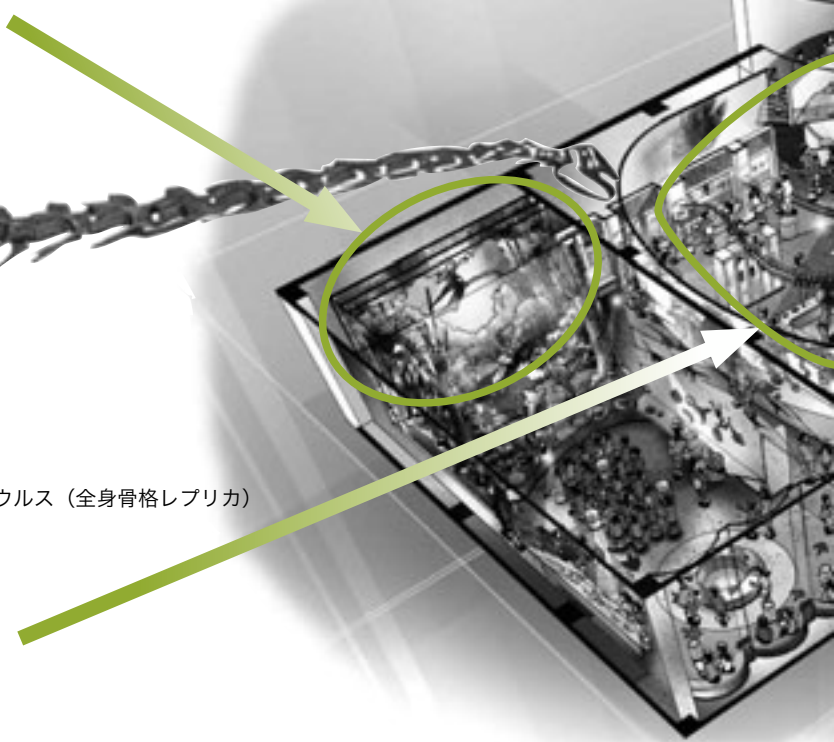
エドモントサウルス（実物）、アロサウルス、ティラノサウルス、トリケラトプス、ステゴサウルス、ユアンモウサウルス

自然史博物館利用案内

電話	豊橋市自然史博物館（豊橋総合動植物公園内）☎ 41・4747 ☎ 41・8020
入館料	のんほいパーク入園料で入館できます。大型映像（ダイナビジョンシアター）は、料金がかかります
大型映像観覧料	大人 500円（400円） 小人 200円（160円） （ ）内は30人以上の団体料金



プテラノドン（全身骨格レプリカ）



化石にさわって知る恐竜の世界

アンモナイトや恐竜の化石など、さわれる展示が多くあります。恐竜のうんちの化石にもさわることができます。クイズとゲームのチェックラリーは、古生代・中生代展示室と続けて挑戦することができます。いろいろな仕掛けがある中生代展示室で、いろいろな発見をしてください。



展示室でさわれるアンモナイトの化石（イギリス産）